

在宅保健活動論	4 年・前期	1 単位	准教授 島田 昇 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310944

1. 授業のねらい・概要

在宅保健活動の理念と目的，必要とされる社会的背景について理解し，在宅保健活動に関わる法制度や現状を学ぶ。さらに，在宅の場における健康増進，疾病予防，QOL の向上のための援助方法，基本的な知識・技術，家族への指導方法を習得し，保健・医療・福祉の包括的ケアにおける看護職の役割について学ぶ。

2. 到達目標

1. 在宅保健活動の目的と背景，関連制度について理解する。
2. 健康増進，疾病予防，QOL の向上のための援助の基本を理解する。
3. 在宅保健活動における看護職の役割と医療・保健・福祉との連携について理解する。

3. 授業の進め方

講義とグループワークを中心に授業を行う。

4. 授業計画

1. 在宅保健活動の目的と背景
2. 在宅保健活動と保健医療福祉の社会制度
3. 高齢者保健
4. 成人保健
5. 母子保健
6. 障害者保健
7. 難病保健
8. 暮らしの保健室

5. 成績評価の方法・基準

定期試験 70%，課題レポート 20%，平常点 10%として総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：臺有桂・石田千絵・山下瑠理子（2018）：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版

参考文献：秋山正子（2016）：つながる・ささえる・つくりだす 在宅現場の地域包括ケア 医学書院
標準保健師講座 3 （2018）：対象別公衆衛生看護活動 医学書院

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

シラバスの授業計画の範囲について最低 1 時間以上の予習及び授業内容について 1 時間以上の復習を行うと。

8. 受講上の留意事項

講義やグループワークには主体的に参加して下さい。

9. 課題に対するフィードバックフィードバック方法

提出された課題は教員が内容をチェックして返却する。内容が不備なものは再提出を求める。
試験の結果と模範解答は後日掲示する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，習得できない場合卒業認定不可となる。